

学校法人敬心学園

第 17 回職業教育研究集会 (旧学術研究会)

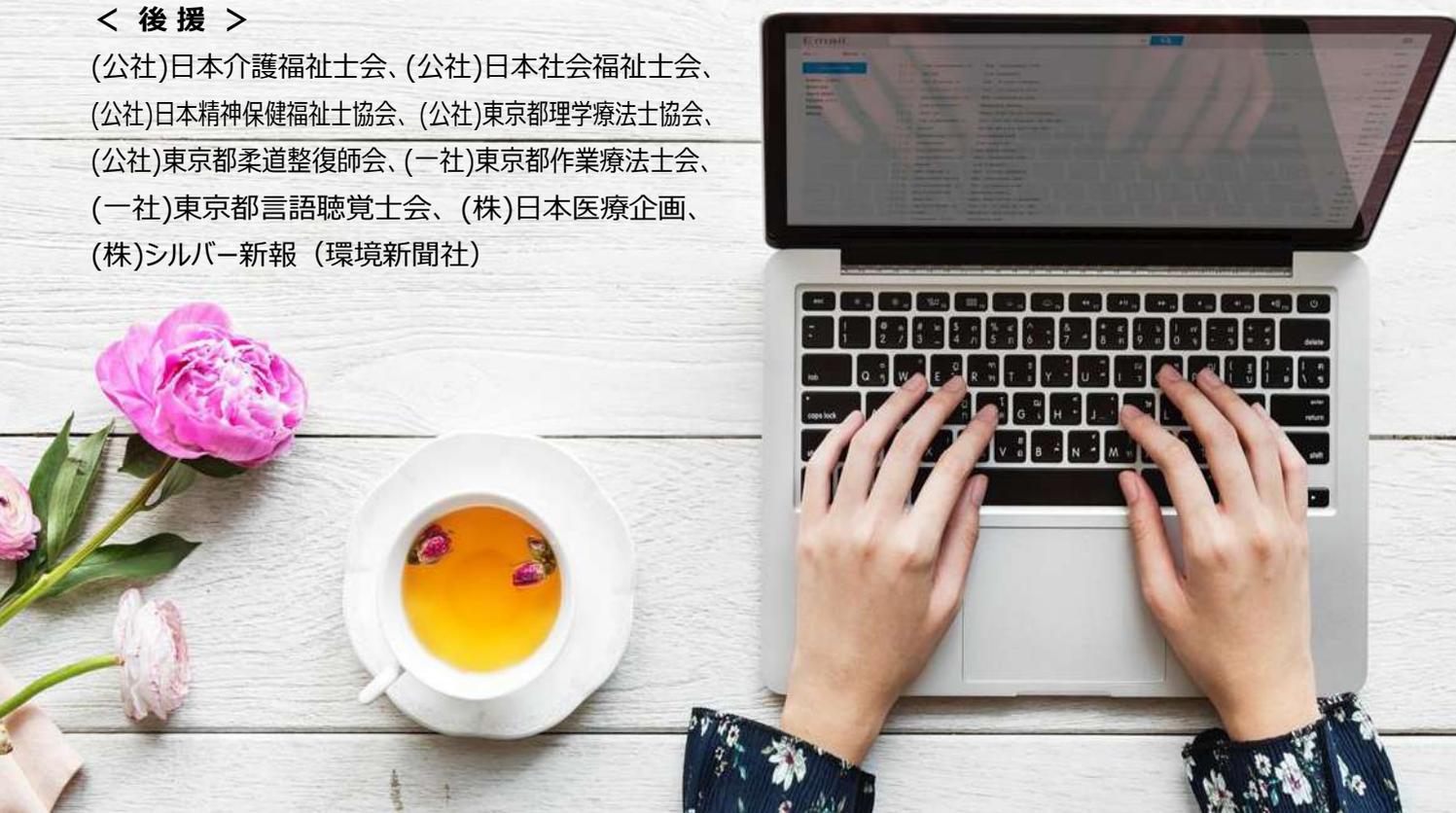
兼 第 13 回 職業教育研究開発センター 公開研究会

プログラム・抄録集

2020年11月8日 Zoom開催

< 後援 >

(公社)日本介護福祉士会、(公社)日本社会福祉士会、
(公社)日本精神保健福祉士協会、(公社)東京都理学療法士協会、
(公社)東京都柔道整復師会、(一社)東京都作業療法士会、
(一社)東京都言語聴覚士会、(株)日本医療企画、
(株)シルバー新報 (環境新聞社)



第17回・職業教育研究集会の開催にあたり

・・・「学生とのコミュニケーション・職業教育の中で」・・・

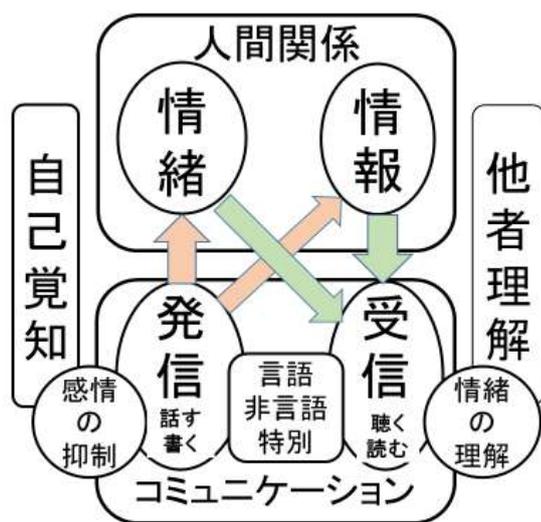
第17回 敬心学園職業教育研究集会

実行委員長 川廷 宗之

「職業教育研究集会」を準備しながら、コロナ禍を通り抜けつつある中で、改めて浮かび上がってきた課題は、質問のやり取りなど「非対面」でのコミュニケーションをどう展開するかという技術的な問題でした。しかし、この課題は技術面にとどまらず、Lineによるコミュニケーションなど、<人間全体としての関係を伴わない>断片的な言葉のやり取りがもつコミュニケーション上の課題は、以前から指摘されていました。その課題は、このコロナ禍の中で、スカイプやZoomなどなどによるコミュニケーションをとらざるを得ない中で、改めて「人間としてのつながり」とコミュニケーションの有りあり方が、課題となっています。

ビジネスとして何かを動かしていくだけなら、新たなコミュニケーション・ツールは便利なのですが、教育場面を含め対人援助自体が業務内容である場合は、本来のコミュニケーション機能を、ノンバーバル（非言語）的なコミュニケーションをほとんど伴わない形での、ICT/ツール経由で可能なのか、改めて考える必要があります。

しかし、このようなコミュニケーション・ツールが、人間関係のどういう影響を及ぼすのかといった問題以外にも、以前から人間関係の希薄化は気になる課題でした。日本では、「いじめ」や「自殺」「孤立」などが問題になっていますが、これらの課題の



図「人間関係とコミュニケーション」作図・筆者

背景には、一概には言えないまでも「人間関係」の持ち方や「コミュニケーション」のあり方が、大きな課題の一つであることは、衆人の認めるところでしょう。

今回の研究集会は、まさにこの課題を反映し、Zoomなどによるオンライン開催となりました。わざわざ会場に行かなくてもよく参加しやすくなったという反面、集合して行う研究集会では考えにくい課題もあるだろうと考えています。

そのような中で、今回、つくば言語技術教育研究所の三森ゆりか先生からお話を聞けるのは、素晴らしいチャンスです。また、分科会での様々な研究発表でも、学内外の研究者の方々からを含む、多くの充実した報告が行われます。

ぜひ内容に期待して、ご参加いただき、この職業教育研究集会で大きな刺激を受け、明日への活力を養う場になることを願っています。

ご案内とお願い

<会場>

講演および分科会(口演発表)はすべて Zoom にて開催いたします。

会場となる Zoom の ID・パスワードは、予めお申込みをいただいた方あてに、事務局よりご案内しております。

尚、講演は Zoom ウェビナー、各分科会はそれぞれ Zoom ミーティングにて開催をいたします。

お申し込みを済まされていない方は、事務局あてご連絡の上、お申し込み手続きをお願いいたします。

<録画について>

- ・**口演・発表時の録画データを後日視聴できる環境を準備します。(3週間限定、パスワード設定つき)**
講演は Zoom ウェビナーによる録画としますので、参加(視聴)される皆さまの顔映りはございません。分科会(口演発表)では、座長ならびに発表される演者にスポットライトビデオをあて進行しますが、質疑応答以降、質問をされる方(座長に指名された方)は、ビデオをオンにいただき、スポットライトビデオの対象とさせていただきますので、顔映りがございますこと、ご了承をお願いいたします。

<お願い>

- ・**講演・分科会の受信映像や発表資料の保存(画面キャプチャー・撮影・録音等を含む)無断転用などは、著作権等の問題が発生する可能性がありますので、固くお断りしております。**
(後日、学園関係者へご案内する録画データも同様です)
- ・参加(視聴)にあたり、質疑時に質問をされる場合、講演では顔映り・音声も録画残りがございませんが、分科会(口演発表)質問時は、ビデオオン(ミュートも解除)をお願いし、録画させていただきます。

<参加(視聴)される皆さまへの事前のご案内>

- ・事前にお知らせいたします Zoom の ID/パスコードにて入室をしてください。
- ・講演は 500 人まで、各分科会はそれぞれ 100 人の入室制限がございます。ご了承をお願いします。
- ・講演・口演会場への入室は、出席確認等のためお名前欄にご所属も記載いただき、ミュート設定の上ご出席をお願いします。
- ・Zoom 会場へは講演：10 時 50 分(10 分前)頃、分科会：11 時 15 分(5 分前)頃より、順次入室許可対応を予定しております。
- ・講演時の質疑(質問事項)は、QA への入力をお願いいたします。QA による質疑を行うことで、参加(視聴)者の顔映り・音声の録画もございません。
- ・分科会(口演発表)では、質疑をされる(座長に指名された)場合、ミュートを解除・ビデオオンにしてください。録画をとらせていただきます(お顔映りがございます)ことご了承をお願いいたします。(分科会は、スポットライトビデオ機能を使用し質問者へもスポットライトをあてさせていただきます。)

* Zoom 参加(視聴)者の簡易マニュアルは、お申し込みいただいた方あてに別途お送りします。

発表される皆さまへの事前のご案内

<～発表前週（11月2日）まで>

- ・ 予め、Zoom による発表の動作確認テストを実施させていただきます。
- ・ その際、発表に使用される PowerPoint データをご準備ください。
作成途中の場合、追って完成版データをお送りください。通信環境トラブルなどを鑑み、予めバックアップ準備させていただきます。(11月5日までに事務局へお送りいただけますようお願いいたします。)

<発表当日>

1. 入室

- ・ 発表される分科会への入室を 11:05 目安にお願いします。
その後、スポットライトビデオの確認を兼ねて、分科会の座長・発表者の顔合わせをいたします。
分科会開始の5分前から参加（視聴）者の入室許可を開始しますので、発表まではビデオをオフに、音声はミュート設定にしてください。

2. 発表時間

- ・ 発表時間は、1 演題あたり合計 20 分（発表 15 分・質疑応答 5 分）です。
- * Zoom による遠隔での進行となるため、タイムキープはチャット上になります。10分経過時点及び14分経過時点に、チャットによるご連絡をいたします。

3. 発表形式

- ・ 口演は全て Zoom 「共有」によるプレゼンテーションをお願いいたします。
予め Zoom 設定の上、ご自宅・勤務先などからの参加をお願いします。
- ・ 発表時は、座長（共同ホスト）、運営委員・事務局がホスト・共同ホストとなり、Zoom のスポットライトビデオ機能を使用して、進行いたします。
発表時はスポットライトビデオをあてさせていただき、録画いたしますことをご了承をお願いします。

4. 発表用データ

- ・ 発表用スライドは、Microsoft PowerPoint にて作成し、ページ設定をワイド（16:9）にし、作成することを推奨いたします。* 参加（視聴）される方がスマホで見られる可能性もございます。
- * 発表内データ内の著作権者や肖像権などの確認を予め、お願いいたします。
尚、参加（聴講）者への無断転用などのお断りは、申し込み時および抄録内でも記載しております。

第 17 回 敬心学園職業教育研究集会

(旧学術研究会)

兼

第 13 回 職業教育研究開発センター公開研究会

プログラム

◆開会ご挨拶～講演 10:00～11:05 (Zoom ウェビナーによる開催)

テーマ：「これからの社会に必要な言葉の教育」

講演者：つくば言語技術教育研究所所長 三森 ゆりか 氏

◆分科会 11:20～12:30 (Zoom ミーティングによる開催：分科会ごと会場設定)

◇分科会 I ……職業教育、学生指導

座長：原 葉子 (日本福祉教育専門学校)

演 題 名	発 表 者	所 属	頁
職業教育 福祉施設と若年無業者の親和性に関する研究 —若年無業者の福祉業界への職業教育の探求—	檜垣昌也	聖徳大学短期大学部	<u>12</u>
学生指導① 日本のヤングケアラー研究の動向と到達点	河本秀樹	職業教育研究開発センター 客員研究員	<u>13</u>
学生指導② 介護福祉士専門学校生の学校生活に対する充実 感と学習動機の関係性	上村幸子	新潟医療福祉カレッジ	<u>14</u>

◇分科会 II ……授業技術

座長：浮谷 英邦 (日本医学柔整鍼灸専門学校)

演 題 名	発 表 者	所 属	頁
授業技術① エクセルのハイパーリンクを使用した授業準備 表の作成方法 —フォルダ整理術の一環として—	黒木豊域	日本福祉教育専門学校 ソーシャル・ケア学科	<u>15</u>
授業技術② 令和2年度前期のオンライン授業実施の報告 (1)	兼子啓太郎	日本医学柔整鍼灸専門学校 事務局・教務グループ	<u>16</u>
授業技術③ 令和2年度前期のオンライン授業実施の報告 (2)	天野陽介	日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科	<u>17</u>

◇分科会Ⅲ……授業技術・学習内容

座長：齊藤 美由紀（日本福祉教育専門学校 兼 職業教育研究開発センター）

演題名	発表者	所属	頁
授業技術④ 分かりやすい資料と分かりにくい資料の比較検討 —学生と教員へのアンケートを通じて—	遠藤久美子	日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科	<u>18</u>
学習内容(介護福祉士・社会福祉士…)① 遠隔での介護実習の学習効果を検証・報告する 意義はあるか —先行研究検索を通し考える—	大石恵子	上智社会福祉専門学校	<u>19</u>
学習内容(柔道整復師・鍼灸師)② 臨床実習におけるルーブリック(学習到達度表) 活用方法 —教育課程等の見直しに役立つ—	渡邊靖弘 大島貞昭 青木春美	日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科	<u>20</u>

◇分科会Ⅳ……学習内容

座長：手塚 雅之（日本リハビリテーション専門学校）

演題名	発表者	所属	頁
学習内容(介護福祉士・社会福祉士)② 韓国社会福祉士の現状と養成教育	高橋明美	日本福祉教育専門学校 社会福祉士養成科／精神保健福祉士養成科	<u>21</u>
学習内容(理学療法士・作業療法士) 作業療法におけるスピリチュアルケアの要素について —スピリチュアル・クライシスの状態が推測された事例分析からの考察—	坂本俊夫	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科	<u>22</u>
学習内容(柔道…) 第4回フロリダトレーナー研修の動向 —University of Central Florida との研修—	大隅祐輝 ¹ 西村優一 ¹ 渡邊靖弘 ²	日本医学柔整鍼灸専門学校 柔道整復学科 ¹ 鍼灸学科 ²	<u>23</u>

*ID/PWは、お申込みいただいた方へ直接ご案内いたします。

講 演

「これからの社会に必要な言葉の教育」

つくば言語技術教育研究所 所長

三森 ゆりか 氏

10:05～11:05

10:00 より開会の挨拶後、10:05 より講演を予定しております。

(Zoom ウェビナーによる開催)

講演

講演者紹介

有) つくば言語技術教育研究所
所長 三森(馬淵) ゆりか(さんもり ゆりか)

【略歴】

東京都出身。中・高校時代の4年間を旧西ドイツで現地校に通う。上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業後、丸紅(株)プラント本部産業プラント部東独プロジェクト室勤務。その後、上智大学文学研究科博士前期課程中退。平成2年つくば研究学園都市に言語技術教室(現「(有)つくば言語技術研究所」)開設。同研究所所長。

慶応横浜初等部、聖ウルスラ学院英智小・中学校、森村学園初等部・中等部、筑波大学などで非常勤講師、日本サッカー協会、JOC ナショナルコーチアカデミー、JOC 国際人養成アカデミー、JOC エリートアカデミー(いずれも日本オリンピック委員会)などで専任講師、その他様々な教育機関〈幼稚園～大学〉、教育委員会、企業[日本航空(株)、SMBC ラーニングサポート(株)、ヤフー(株)、野村證券(株)、日本板硝子、JR 東日本、JR 西日本]などで講師等。

平成13年度文化庁主催国語施策懇談会パネリスト、平成14年度より文化庁主催日本語教育大会パネリスト及び分科会講師等、平成17年度文科省読解力向上に関する検討委員会委員、平成18～19年度文科省言語力育成協力者会議委員、平成19年度文科省スポーツ指導者の養成・活用に関する調査研究協力者会議委員、平成22年度文科省コミュニケーション教育推進会議教育WG委員。平成21年より(財)ソニー教育財団評議委員。

【専門分野】

言語技術教育

【主な著書】

- ・『言語技術教育の体系と指導内容』明治図書 1996
- ・『「視点をを変える」訓練で力をつける』明治図書 1996
- ・『「描写文」の訓練で力をつける』明治図書 1996
- ・『論理的に考える力を引き出すー親子でできるコミュニケーション・スキルのトレーニング』一声社 2002
- ・『イラスト版ロジカル・コミュニケーションー子どもとマスターする50の考える技術・話す技術ー』合同出版 2002
- ・『絵本で育てる情報分析能力ー論理的に考える力を引き出す2ー』一声社 2002
- ・『外国語を身につけるための日本語レッスン』白水社 2003
- ・『外国語で発想するための日本語レッスン』白水社 2006
- ・『子供のための論理トレーニングプリント』PHP出版 2005
- ・『小学校での英語教育は必要か』大津由紀雄編・慶應義塾大学出版会 2004
- ・『サッカーのためのロジカル・コミュニケーションスキルアップブック』ベースボール・マガジン社 2009
- ・『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館 2013

【訳書】

- ・『ホッパー』 タッシェン・ニューベーシックアートシリーズ 2001
- ・『てのなかのすずめ』 一声社 2002

有限会社 つくば言語技術教育研究所

代表取締役 三森（馬淵）ゆりか

301-0033 茨城県つくば市東新井19-18 Kaisho 1F, 106号

電話／ファクス 029-859-3757 E-mail: lait@jcom.home.ne.jp

HP: <http://members.jcom.home.ne.jp/lait/index.html>

題目 これからの社会に必要な言葉の教育

講演内容

1. 言語技術教育の概要

- ・古代ギリシャに由来するグローバスタンダードの言語教育
- ・言語技術は、主に欧米言語圏で一般的な母語教育であり、その上に載る全ての教科の指導方法が言語技術に基づく
- ・社会での生活/企業での仕事にも欠かせない言葉の力

2. 具体的な内容

2. 1 対話

日本人が不得手とするわかりやすい対話の方法と質問力について

2. 2 物語

物語を構造的に捉える方法

2. 3 視点

様々な視点から対象を捉える方法

2. 4 説明

空間配列の手法を用いたわかりやすい説明の技術

2. 5 分析

非連続型、連続型のテキスト情報を扱うために不可欠の批判的、分析的思考であるクリ

ティカル/シンキングの実施方法

分科会

11：20～12：30

◇分科会Ⅰ……職業教育、学生指導

◇分科会Ⅱ……授業技術

◇分科会Ⅲ……授業技術・学習内容（介護福祉士・社会福祉士、
柔道整復師・鍼灸師）

◇分科会Ⅳ……学習内容（介護福祉士・社会福祉士、
理学療法士・作業療法士、柔道整復師・鍼灸師）

*Zoom 会議による開催、ID/PW は、お申込みいただいた方へ直接ご案内いたします。

福祉施設と若年無業者の親和性に関する研究

—若年無業者の福祉業界への職業教育の探求—

ひがき まさや
○ 檜垣 昌也

聖徳大学短期大学部

【背景】と【目的】 報告者は、養成校での勤務の傍ら、支援者・研究者として、いわゆる<ひきこもり>やニート経験者・当事者（以下便宜上「若年無業者」として表記する）と呼ばれる者たちに支援の場の提供と、他の現場のフィールドワークをおこなっている。

若年無業者支援として行政もさまざまな就労支援・職業教育に関する事業を行ってきている。報告者はこれまで、雇用のミスマッチをキー概念として、これら若年無業者と福祉業界（主に介護分野）の接合可能性を探ってきた。

【方法】 本報告では、これまでの公開された先行研究（報告者のものも含む）で公開された、倫理的配慮が担保されたデータの内容分析を行っている。

得られた、質的なデータの内容分析から、2020年代の支援のあり方（特に現在我々が見舞われている、現状（コロナ禍）をふまえ、いわゆる“アフターコロナ”、“ウィズコロナ”時代の支援についても考察を深めた。

【結果】

若年無業者からは、①本人の生き方・価値観等、②介護福祉業務及び職場についての認識・希望等、③受けた支援の実態・課題、④就労を継続している理由（介護職への就職活動を継続している理由）や退職・転職理由など。福祉施設関係者からも①本人の生き方・価値観等、②介護福祉業務及び職場についての認識・希望等、③若年無業者への評価と課題。支援者からは①支援の実態と課題等、③若年無業者への評価と課題（支援から得るものを含む）これらの項目で、有用な考え方が見えてきた。

【考察】

以上の結果から、受け入れ側である福祉現場での対応のあり方と、若年無業者への福祉現場就労の可能性、多くの支援者側に対する介護現場への就労支援のあり方を提示する。

若年無業者に対する支援もしくは研究としては、「就労支援としてのニート対策」、「生活支援としての<ひきこもり>対策」などが、それぞれ労働分野、精神保健福祉分野などで実践を視野にいたった研究が多数なされている。対象者が“若年”から“高齢”へと移る中、新たな支援のあり方とその阻害要因を提示したい。

日本のヤングケアラー研究の動向と到達点

かわもと ひでき
○ 河本 秀樹

職業教育研究開発センター 客員研究員

【背景】

日本では、ヤングケアラーの正式な定義はない。だが、家族にケアを要する人がいる場合、大人が担うケアを行っている 18 歳未満の子どもたちとされ、その存在への支援の必要性があるにも関わらず、支援がないのが現状である。本来、キャリアを積むべき小中高生の時期に、十分なキャリアを積めないまま社会に出ることになる。

また、家族介護者支援は、日本のケアシステムである介護保険制度では、「地域支援事業」の中の任意事業である。充分ではなく、ヤングケアラーについては、言及されていない。

【目的】

ヤングケアラーの存在は広くは知られておらず、具体的な支援も模索されている。この現状をレビューすることで今後、必要なことを明らかにする。

【方法】

文献研究とし、「google scholar」と「CiNii Articles」の2つのデータベースからのデータベース検索、頻出著者名の検索、雪だるま式の検索を行った。

得られた文献レビューのプロセスは、課題設定、文献検索、内容検討、文献統合、論文執筆とした。文献統合として、要約表に文献を落とし込んだ。

【倫理的配慮】

職業教育研究開発センターの研究倫理指針を遵守している。

【結果】

データベースから 76 件を得た。それを採択の基準に従い、13 件を得た。引用・被引用から補完として 2 件を得て、合計 15 件を得た。結果を要約表に落とし込み論文を概観した。なお、表は時系列の順とした。内容検討と採択の理由を記述し、時期ごとの特徴でヤングケアラー研究を 5 つに分けた。

【考察】

だれがどのようにヤングケアラーを支援するのかは、専門職間でも共通に認識とではない。またヤングケアラーの問題は、家族介護者支援の問題ともされ、様々な支援の方法が模索されている。さらに、日本では、「介護の社会化」という観点や調査が行われ始めたが、介護者支援が充分とは言えない。

ヤングケアラーの支援は、家族全体をケアすることが必要となり、家族介護者への支援の必要性という面にも注目すべきでもある。

介護福祉士専門学校生の学校生活に対する 充実感と学習動機の関係性

○ かみむら さちこ 上村 幸子

新潟医療福祉カレッジ

【背景】介護福祉士に希望を抱いて入学した学生の学習動機を支えながら、将来専門職業人として自律して「成長」していける様に学習基盤を作る事が教員の役割である。

【目的】学生が、学校生活に充実感を感じているのか、どのような学習動機を持つのかを知る。学校生活の充実感と学習動機の関係性を明らかにする。学生が学習動機を持ち続けられるように、教育活動にフィードバックする。

【方法】対象はA介護福祉士専門学校2年学生46名である。無記名自記式質問紙法、多項目選択式で次の内容を行った。①学校生活の充実感を「勉強」と「実習・ボランティア」の2項目、②「市川伸一の6種類の学習動機」の36項目を動機の種類ごとに合計した。さらに、学校生活の充実感に関する学習動機の種類を挙げて分析した。

【倫理的配慮】“市川伸一の6種類の学習動機”5段階評価を4段階評価に変更”の使用許可、研究倫理専門委員会の承認を得た。

【結果】「学校の勉強に充実感を感じている」学生は全体の78%であった。「学校の実習・ボランティアに充実感を感じている」学生は全体の80%であった。「勉強の充実感」と「実習・ボランティアの充実感」には正の相関関係が見られた。「勉強の充実感」と「充実志向の学習動機」にも、正の相関関係が見られた。「勉強の充実感」と「実用志向の学習動機」にも正の相関関係が見られた。

【考察】協同学習では、自分たちの目指す学習目標が到達可能と思える内容で明確である。グループ間で互いに教え合いながら、学習自体を楽しく行えている。この方法により、学生は充実志向の学習動機を高めている。また、介護現場に見られる事例を活用したリアルな授業は実用志向の学習動機を刺激され、将来の自分がイメージ出来る。授業の最後にはc-learningで確認テストをする。c-learningでの教師の見守りによって、学生は社会的自尊感情を高めている。これらは、学生の楽しい学校生活につながっている。さらに今後の学生自身の学習内容の重視や学習方法の深まりにもつながる。

エクセルのハイパーリンクを使用した授業準備表の作成方法

—フォルダ整理術の一環として—

○ 黒木 豊域くるぎ とよき

日本福祉教育専門学校 ソーシャル・ケア学科

【背景】授業に備え様々な形式の資料、小テスト、テスト等の多くのドキュメントを作成し、フォルダに整理していると、保存名を忘れてしまうことがある。せっかく作成し保存したはずの文書がフォルダの中になかなか見つからず、見つけるまでに時間がかかってしまう。この段取りにかかる時間は無駄でありストレスなく探し出す方法はないかと考え、エクセルでハイパーリンクを使った授業準備表を作るに至った。簡単な操作で使えるハイパーリンクであるが、整理術の一環として用いると利便性が高い。今回はエクセル表にハイパーリンクを用いる方法を紹介し、授業準備表の作り方を説明する。

【目的】授業準備に役立つエクセルのハイパーリンクを使用した授業準備表の作り方と実践報告

【方法】発表の内容

1. エクセルのハイパーリンクを用いた授業準備表について
2. ハイパーリンクの作り方
3. 授業準備表の作り方
4. フォルダの整理

【結果】実践により次の結果が得られた。

1. ハイパーリンクを用いることで、段取りが改善された。
2. 授業準備作成表で準備の度合いが可視化できるようになった。

【考察】ハイパーリンクの注意点

1. ハイパーリンクは、紐付けたドキュメント名を変更すると開けなくなる。
2. ハイパーリンクは、紐付けたドキュメントの入っているフォルダ名を変更すると開けなくなる。

令和2年度前期のオンライン授業実施の報告(1)

かねこ けいたろう
○ 兼子 啓太郎

日本医学柔整鍼灸専門学校 事務局・教務グループ

【背景と目的】 令和2年春、新型コロナウイルス感染症拡大への対応に全国民が直面し、本校でも新年度授業について早急な決定・実施に迫られた。

我々が行ってきたオンライン授業に関して、斯界の参考に供することを目的に報告する。

【方法】 日本医学柔整鍼灸専門学校で実施したオンライン授業について、令和2年3月23日～同年8月31日の活動をまとめ、考察を加える。

【結果】 3月23日、オンライン授業導入の検討を開始。学生の通信端末所持状況等の調査やWEB会議システムの比較検討を行った。4月1日、第1期(5月11日～7月21日)は座学授業をオンラインで実施すると決定。使用アプリは通信量や操作の観点からzoomを選択し、マニュアル作成に着手。4月20日から2週間、トライアル授業を実施。そこで生じた事象に対処し、5月11日よりオンライン授業を開始した。

緊急事態宣言解除後の7月22日より実技授業を対面で開始。30分程のデモ動画を事前配信し、学生は各自予習。学校では実技演習と指導を行う反転授業に取り組んでいる。

臨床実習は施術ブースに入る学生を2名に限定し、他学生はオンラインで視聴。音声・映像の配信方法を種々試みている。

座学授業は対面・オンライン配信のハイフレックス型で行い、学生による選択制としている。

【考察と結論】 教員・事務局双方から意見を出し合い課題解決していくことで、新しいアイデアが生まれていった。こうした経緯を踏まえ、オンライン授業導入に最も重要だったのは、設備やITリテラシーではなく、「新しいことに取り組もうとする教職員の空気感」であったと感じている。一歩踏み出すことで見えてくることが多くあり、学校全体で取り組もうという雰囲気が形成されていった。

実技の録画収録については、繰り返し視聴できる点では効果もあり学生の満足に繋がっている。さらに、希望する方向から視聴できる自由視点映像を導入できれば、より学習効果が高まると考えている。

令和2年度前期のオンライン授業実施の報告(2)

あまの ようすけ
○ 天野 陽介

日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科

【背景と目的】 前報〔令和2年度前期のオンライン授業実施の報告(1)〕に続き、オンラインによる座学授業実施にあたり教員が行った取り組みについて、斯界の参考に供することを目的に報告する。

【方法】 対象は令和2年度の第1期または第2期に日本医学柔整鍼灸専門学校でオンライン授業を行った専任教員。調査方法は本年9月24～27日の期間で、19の質問(多肢選択14、自由記述5)をGoogleフォームによる無記名のアンケート方式で行った。統計処理は行わず単純集計とした。

【倫理的配慮】 調査は本校倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号2020-001)。

【結果】 回答数16。回答の概略を示す(<>内は回答人数)。ほぼ全員<15>がオンライン授業初経験で、配信は主に自宅<8>・学校<5>から行い、自宅配信のネット環境は過半数<6>が光回線+wifiルータで、配信にはノートPCが主に用いられた<15>(複数回答)。授業での提示資料は主にパワーポイントで作り<10>、今年度すべて作り直した<11>。学生への配付資料は使用した<14>(9回の授業でA4片面刷り換算で1-90枚)。

自由記述の回答を分類して示す(数字は件数)。オンライン授業で苦労したことは、機材関連11、授業内容・構成9、資料関連7、コミュニケーション5など。オンライン授業が対面形式授業より効果的だと思うことは、学習効果8(うち録画視聴による効果7)、登校・受講の時間制約から開放6、資料提示3、なし3など。効果的でないと思うことはコミュニケーション14、学習効果12、機材関連3、資料提示3、学習効果判定2、授業技術2、体調への影響1。オンライン授業については肯定的感想7、否定的感想6、課題意識5であった。

【考察と結語】 教員はオンライン授業に試行錯誤して取り組み、対面・オンラインの異同を感じていた。今後の課題としては、オンライン・対面の良い点を理解活用し、オンライン対応の授業方略を模索・習熟し、IT技能を向上させ、配信環境を整備することが挙げられよう。

分かりやすい資料と分かりにくい資料の比較検討

—学生と教員へのアンケートを通じて—

○ 遠藤 久美子

日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科

【背景】 授業資料は通常各教員が独自で作成している。資料の質は教員のセンスや技術に左右され個人差が大きいと思われる。鍼灸学校界において、分かりやすい資料とは何か、どのような点に注意して作成すれば良いかなどを具体的に取り上げた報告は少ない。

【目的】 分かりやすい資料と分かりにくい資料の比較検討を行うことで、分かりやすい資料を作成する時の注意点などを知り、授業資料の質向上に寄与することを目的とした。

【方法】 対象は日本医学柔整鍼灸専門学校の柔整学科・鍼灸学科の専任教員、鍼灸学科1・2年生。11の質問（多肢選択、自由記述）をGoogleフォームにより無記名のアンケートで実施。実施期間は2020年9月24日～26日。回答を単純集計し検討を行った。

【倫理的配慮】 調査は本校倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号2020-002）。

【結果】 概略を示す（<>内は回答人数）。教員<20>は資料作成について、教員養成で学んだ者は少なく<4>、多くは自己学習を行っていた<15>。

学生<105>は担当教員が作成した資料は必要と考え<103>、分かりやすい・学びになると思う資料は、見やすい<57>、ポイントが分かりやすい<90>、構成段落が整っている<48>、図や表が適宜ある<67>とし、分かりにくい資料としては、要点が分かりづらい<21>、文字や図に関しての意見があった<32>。

【考察】 学生の98%は担当教員が作成した資料は必要としており、その資料は当面の授業のみでなく、3年間使用でき国家試験の勉強に活用できるものを求めている。資料の重要箇所の表現を統一する、段落番号を整える、行間の取り方を工夫する、文章に図表を加えるだけでも学生にとって見やすい資料になることが分かった。

一方、教員の80%は資料作成の授業を受けてきていないため独自で学習し資料作成を行っていた。

以上から、まずは教員が資料作成技術を学ぶことだけで資料の質が向上すると考えられる。現在本校が行っているオンライン授業では、分かりやすい授業資料の重要度は高いと考えられ、資料の質向上は喫緊の課題といえよう。

遠隔での介護実習の学習効果を検証・報告する意義はあるか

— 先行研究検索を通し考える —

おおいし けいこ
○ 大石 恵子

上智社会福祉専門学校

【背景】介護福祉士養成校では2020年、Covid-19感染拡大の影響により施設実習が困難となった。

【目的】A専門学校では一部学生において介護過程展開を伴う施設実習を遠隔で試みた。その学習効果を検証・報告する意義の有無を、先行研究検索を通し考察する。

【方法】「介護実習」「遠隔」「オンライン教育」のキーワードで、医学中央雑誌、CiNii、新聞記事等にて文献検索を行った。

【結果】2012年、小宮山らは「施設実習中に養成校教員が巡回指導の他にオンライン学習支援システムを活用し実習記録を読みフィードバックする遠隔指導を併用した。学生は日々課題を明確に安心して実習、教員は実習状況をふまえて巡回指導計画を立案でき、学習効果を上げた」と報告した。Covid-19影響下での報告は、介護福祉士養成校の事例は0件だった。関連分野では、井上らの「模擬診察・カルテ記載をオンラインで実施、教員がフィードバックする構造」の医学実習の試み、毎日新聞の「学生が遠隔でロボットを操作し園児とコミュニケーションを取ったり遊んだりした」保育実習の事例、日本経済新聞の「ビデオ教材などを活用し患者の状況を想定、健康状態の評価、看護ケアのシュミレーションなど行っているが、病院で先輩看護師の背中を見て患者と向き合い学ぶ実習とはレベルも質も全く違う」との看護学部の事例、ベネッセ教育情報サイトの「介護の知識や技能を身に付けるには最終的には接触を伴う実習が不可欠。しかしオンラインで事前学習を十分に行えば、対面授業では接触の機会を少なくでき短時間で学べる」等の報告があった。

【考察】現場でロールモデルを見て学びつつ利用者と向き合う体験をすることは遠隔実習では困難だが、オンラインでの事前学習や教員の遠隔指導との組み合わせで、臨地実習が効果的となる可能性が伺えた。遠隔での介護実習の学習効果についての報告は見当たらず、今後、A社会福祉専門学校の実践例を検証・報告する意義はあると考える。

臨床実習におけるルーブリック（学習到達度表）活用方法

—教育課程等の見直しに役立つ—

わたなべ やすひろ おおしま さだあき あおき はるみ
○ 渡邊 靖弘・大島 貞昭・青木 春美
日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科

【背景】本校鍼灸学科は技を磨く徹底した実技指導を特色の1つとしている。本年度から臨床実習においてルーブリック評価法を導入した。その目的は、参加した全学生の学習成果を可視化し、学生へのフィードバックや内省の支援、教育内容、教授法を評価、教育課程の見直しにも活用することにある。

【目的】本年度から導入したルーブリック評価表の有効性と今後の活用法検討のため、学生による自己評価をまとめ考察を加える。

【方法】対象は本校の鍼灸学科3年生62名。臨床実習期間(7月22日～10月1日)、4段階評価のうち、最低のものを1点、最高のものを4点として、各項目の平均点を算出した。

【倫理的配慮】ルーブリック評価表は個人同定情報を除去した上で集計し結果を公表する可能性があること、不同意の場合はデータを除外すること、これらに伴い成績評価への影響ほか学生に一切の不利益は生じないことを口頭で告げ、同意を得た。

【結果】20項目の全体平均は3.0点となり、目立って点数が低い項目は「東洋医学的身体診察」で2.3点となった。

【考察と結語】鍼灸学科の教育課程は全2660時間ある。「東洋医学的身体診察」に関する学習は7科目、80時間あり全時間からの割合は3%以下のため、学習時間が少ないことが考えられる。また7科目に渡って学習するので一貫性がなく繋がりを持っていないことも考えられた。

ルーブリック評価表を活用したことにより臨床実習開始前の学習到達度が把握でき、教育課程等の見直しに活かせることがわかった。今後はルーブリック評価表を何故使うのか、どのように使用すると効果的なのかという事を教員間で理解しながら共有することが課題である。

韓国社会福祉士の現状と養成教育

—University of Central Florida との研修—

たかはし あけみ
○ 高橋 明美

日本福祉教育専門学校 社会福祉士養成科／精神保健福祉士養成科

【背景】日本では2021年度から社会福祉士養成教育の大幅な見直しが予定されている。韓国にも「社会福祉士」制度があり、2019年にその養成教育の見直しが行われた。

【目的】韓国における社会福祉士の現状とその養成教育について明らかにするとともに、日本の社会福祉士養成教育への示唆について考察する。

【方法】本研究は文献研究である。日韓の先行研究および韓国社会福祉士会等の研究資料、行政資料、報道資料を中心に検討を行う。

【結果】韓国において、社会福祉士は社会福祉事業法規定された国家資格であり、1級社会福祉士、2級社会福祉士がある。また2018年の法改正により、それまで協会による認定資格であった医療社会福祉士、学校社会福祉士、精神健康社会福祉士が国家資格となることになっている。社会福祉士の総数は2019年末現在、110万7,119人(1級153,866人、2級939,688人、経過措置のみ3級1,3565人)であり(韓国社会福祉士会『2019統計年鑑』)、4年制大学、2年制大学、生涯教育院などの1,009機関で養成されている(韓国社会福祉士会ホームページ)。これら養成機関で、必修科目を10教科30単位以上、選択科目を7科目21位単位以上修了後に2級社会福祉士を取得し、一定の要件を満たした者が1級社会福祉士の国家試験の受験を得る。なお1級合格率は30%程度である。韓国は個別分野に関しては「選択」となっており、「貧困・児童・高齢・障害」といった分野も選択であるが、一方で青少年福祉、プログラム開発といった日本にはあまり見られない科目もある。今回の見直しでは科目の見直しと増加、実践力強化のために実習指導者の厳格化と時間増が行われた。

また、資格取得後現場実践を続けるためには、年8時間以上の「補修教育」の受講が義務となっていることも特徴である。

【考察】韓国では社会福祉士の数が多く、結果として社会福祉士資格有資格者が相談援助を行う実質上の業務独占状態である。数の多さが、社会的認知度にもつながると考えられる。また、「医療・学校・精神」の国家資格化により社会福祉士を基盤とした資格の体系化が図られたこと、補習教育の義務化も韓国の特徴である。これらから、有資格者数の増加、資格の再体系化、現任教育の在り方などが日本への示唆として考えられる。

作業療法におけるスピリチュアルケアの要素について

—スピリチュアル・クライシスの状態が推測された事例分析からの考察—

○ 坂本 俊夫

東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

【背景】疾患や障害に直面した場合、既存の信念体系が作動せずに自らの「生き方」を見失った状態（スピリチュアル・クライシス；以下、S/C と略す）を示す可能性がある。

【目的】目的は作業療法におけるスピリチュアルケアの要素の分析である。

【対象者】対象は作業療法過程において S/C の状態が推測された 2 事例とする。

【方法】事例の作業療法過程から後方視的に分析する。

【倫理的配慮】本研究は 2013 年武蔵野大学大学院通信教育部の特定課題研究として審査を受けた論文からの抽出で、報告する事例の匿名性や権利は保証されている。

【結果】

1) 事例に認めた S/C について：

事例 A は 60 代前半の女性で脳出血後の右片麻痺・失語症を呈していた。事例 B は 20 代後半の男性で左骨盤骨折術後の左下肢機能全廃であった。

2) 事例への作業療法介入：

事例 A のリハビリテーションは順調に進んでいたが、作業療法士に「一人では何もできない。」と述べた。そこで、作業療法士の介入を通して新しい自律生活のあり方を模索した。終了時に「介助を受けても自分らしさがある」と述べた。

事例 B の術後創の回復は順調で、股義足での社会復帰を目指していたが、「何をしても意味がない。」と訓練せずに帰室していた。そこで、他患の作業療法場面見学から開始した。徐々に他患と話すために来室し、共同の家事動作訓練後に自らも「やってみたい」と変化した。終了時に「生きてる感じがする」と述べた。

【考察】事例 A の S/C は、自律性の価値観の危機と考えられた。事例 A の作業療法では、作業療法士の介助とともに様々な生活課題活動の獲得を図った。この過程が新しい価値観（介助を受けながら生活）として喜びに変化したと考える。

事例 B の S/C では、成熟途上の人生観や価値観が外傷後に強く揺らいだものと考えられた。作業療法で他者と関係を持ち変化を認めたことから、対話や共同作業を通して、事例自身の新たな人生観や価値観を見いだしたものとする。

第4回フロリダトレーナー研修の動向

—University of Central Florida との研修—

○ おおすみ ゆう き 大隅 祐輝¹・にしむら 西村 優一¹・わたなべ やすひろ 渡邊 靖弘²

日本医学柔整鍼灸専門学校 ¹⁾ 柔道整復学科、²⁾ 鍼灸学科

【背景】

本校のフロリダトレーナー研修も今回で4回目を迎える事となった。毎年同じ研修プログラムで行くのではなく、少しずつ変化を加えながら研修を進めて行った。

【目的】

スポーツトレーナーに興味を抱いている学生やスポーツ業界に興味を抱いている学生にとって、日本の感覚や状況だけでなく海外に目を向け視野を広く持ち、日本では学べない事を学んで欲しいと言うことを目的に研修を実施した。

【方法】

本校の柔道整復学科、鍼灸学科の学生に参加募集の説明会を行った。説明会后、柔道整復学科昼間部5名、同夜間部7名、鍼灸学科昼間部1名、本校の柔道整復学科卒業生1名の計14名の参加申し込みがあった。引率教員2名、現地コーディネーター1名の計17名で第4回フロリダトレーナー研修が行われた。研修期間は令和2年2月23日から3月1日の6泊8日。University of Central Florida (UCF) での研修は2日間を実施。アスレティックトレーナー (AT) によるスポーツ現場における緊急時の対応、搬送方法、テーピングなどのレクチャーを受けた。またアスレティックトレーナー学科の学生との交流会も実施。研修終了後には修了証も発行された。フロリダトレーナー研修後、研修に対するアンケートを5段階評価で実施した。

【結果】

参加者へのアンケート結果を示す。University of Central Florida (UCF) の研修について、大変良かったが7名、良かったが7名の結果だった。参加者全体の満足度は比較的高かったと思われる。

【考察】

日本では学べない事を University of Central Florida (UCF) の研修で学べる事が出来た為、高評価に繋がったと思う。今後も試行錯誤を繰り返しながら寄り良いフロリダトレーナー研修になれる様に努めて行きたい。

第17回 敬心学園 職業教育研究集会（旧学術研究会）

兼 第13回職業教育研究開発センター 公開研究会

実行委員会

委員長：川廷 宗之

（職業教育研究開発センター）

根本 典子	（日本福祉教育専門学校）	天野 陽介	（日本医学柔整鍼灸専門学校）
松木 健太	（日本福祉教育専門学校）	浮谷 英邦	（日本医学柔整鍼灸専門学校）
深瀬 勝久	（日本リハビリテーション専門学校）	小浜 悠樹	（日本医学柔整鍼灸専門学校）
村岡 華香	（日本リハビリテーション専門学校）	佐藤 博美	（日本児童教育専門学校）
浜田 智哉	（臨床福祉専門学校）	荒井 正明	（日本児童教育専門学校）
樋口 豊朗	（臨床福祉専門学校）	小山 郁子	（敬心学園 事業推進支援部）
小林 英一	（敬心学園 事業推進支援部・ 職業教育研究開発センター）	杉山 真理	（職業教育研究開発センター）
		島谷 綾郁	（職業教育研究開発センター）

第17回 敬心学園 職業教育研究集会（旧学術研究会）

兼 第13回職業教育研究開発センター 公開研究会 プログラム・抄録集

発行日 2020年 10月30日

発行者 第17回 敬心学園 職業教育研究集会

実行委員長 川廷 宗之

発行所 職業教育研究開発センター

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-6

電話 03-3200-9074

FAX 03-3200-9088